

たよ けやき

No. 3 2016年6月30日

発行 社会福祉法人けやき会 設立準備会
住所 新潟市西区上新栄町 3-4-83
電話 025-260-7798

※ このたよりは、会員の皆さんに発行しています

「すべての命が肯定される世界に」講演報告 鈴木さんご夫妻を招いて楽しく開催されました



かけあい漫才のような鈴木様ご夫妻の楽しいお話しでした

電気ガス無し、水は沢から引き込み、新生活がスタートします。近隣との付き合いを避け、二人だけで独立して暮らそうと思いました。畑が借りられず、木を伐って焼き畑農業に挑戦しました。大失敗して山火事を起こし、消防団騒ぎになりました。山林地主、近隣住民に大迷惑をかけました。ひたすら謝って回りました。

これが縁となって周囲に溶け込むこととなった。夕飯時に住民が遊びに来たり、遠くから知らない人々が訪ねて来ました。電気の無い山の家は、家も二人も人気者になっちゃいました。

こんな無茶な暮らし振りを淡々と楽しそうに、二人交互に掛け合い漫才よろしく笑顔で語ってくれました。大変な苦労話なのですが聴いている私たちは大笑いしていました。その後、差別防止、バリアフリー化、支援の制度化、自立支援センター立ち上げなどを、全国の仲間たちと共に積極的に運動して現在も進行中とのこと。



諸橋潔です。けやき福祉タウン構想に夢を描いている一人です。先日6月9日の集いで鈴木絹江さんご夫妻のお話しを伺いました。

絹江さんは福島県いわき生まれ、身体に障害があり車椅子を使っています。しかし、いつも笑顔で超元気なオバチャンです。小柄な身体全体からびっくりするほどのパワーが溢れていました。夫の匡さんは健康的な好男子です。

大分昔、当時高校生だった匡さんが映画会の手伝いをしました。その日の活動が終って、絹江さんが声をかけました。「僕う、もう少し手伝ってくれない？」これをきっかけに彼はボランティア活動をするようになりました。

高校を卒業した彼は結婚を申し込みます。周囲の強い反対を振り切って一緒になったものの、金はありません。山中の一軒家を借りました。



みんなが1品を持ち寄り、豪華な食事会です。

私も34年前から車椅子移送のリフトカーをボランティアで運転していました。私の知っている身体障がい者の仲間たちは、親の保護や、施設の暮らしから卒業して、困難でも独立自律の生活を選んだ人が多いので、話しの内容が共通していて良く分かり共感を覚えました。

若かった頃は貧乏な駆け出しの農家もどきでしたが、今では50種の野菜を育て、鶏を300羽も飼育する充実した堂々たる農家です。そんな平和な生活が放射性物質に襲われてしまったのです。お二人は今、放射線被害を避けて京都で暮らしておられます。従来運動に加えて、反原発の活動も展開したい。いつも前向き、溢れるパワー、周りまで明るく元気になります。いい人に出会いました。これからもご活躍を期待しております。共に頑張りましょう。

子ども食堂ネットワークづくり会議 ～地域で見守り育むために

6月2日、新潟市東区プラザで「子ども食堂ネットワークづくり会議」が東区社会福祉協議会、にいがた子育てステーションの共催で開催されました。

第1部 「要町あさやけ子ども食堂のとりくみ～地域を変える 子どもが変わる 未来を変える～」と題してNPO 法人豊島子ども wakuwaku ネットワーク 理事長 栗林知絵子さんの講演

第2部 「地域における子ども食堂の役割」 新潟県立大学 准教授 小池由佳さんのミニ講演

第3部 「新潟市でもはじめたよ！～こども食堂の実践報告～」コーディネーター 小池さん、コメンテーター 栗林さんをお迎えして、報告①「ふじみ子ども食堂」、報告②「東明 OHANA 花まる食堂」が行われました。

以下に、それぞれの内容を簡単に報告します。

第1部の講演では、子育て生活の中で、自分自身の子ども時代の楽しかった生活を思い出し、冒険遊び場＝プレイパークの活動を始めた。そこに来る子どもから地域の子どもたちの置かれた現状を知り、学習・食の支援サポートを開始し、パン屋のおじさんが場所を提供してくれることになり子ども食堂が始まった。また、プレイパークに来る子どもたちの中に食事を十分に食べていない子や車上生活の子どもの存在を知り、その子たちの生活を変えることはできないが、自分の子どもの分の他におにぎりやおやつを用意したり、学校で必要な雑巾等の提出物をその子どもたちの分まで用意したりする「ちょっとしたおせっかい」がきっかけでもあった。

参加された方の感想です！

栗林さん、小池さんの話を通して
富井 良子

「子どもの動ける1km圏内、校区内1ヶ所ずつ」の合言葉が増えてほしい。99%の自分たちと価値観の違う人々？知らない人々に伝えていく努力。99%の人たちが言う「そうだよ」が次の解決につながる。思いがあり、したいねの旗をあげると「人」や「場所」は集まってくるなどの栗林さんの話は力強く感じました。

自分たちで集まり、自分たちで決め、自分たちで場を育てていく。そして大事なことを押さえたらあとは自由に活動する。その自由の部分が大切と語る小池さんの話に共感しました。そしてその自由の部分を共有化していくことの大切さも。

勉強がわからないとつぶやいた中学生男子の家庭は、シングルマザーの母親が朝から晩まで働いているため、彼が家事をして兄弟の面倒を見ている。宿題もする余裕がなく、学校の勉強にもついていけないが母親には心配をかけるので言えない。高校進学など考えられない。そんな彼に協力したいと考え、家に呼んで夕食をとってもらい、知り合いの大学生に勉強を見てもらうようになり、最終的に都立高校に合格できた。

また、母子家庭であることをからかわれて不登校になった女子生徒とその母親のケースでは、親子とも自分自身を責め、母親も引きこもりがちになってしまったが、子ども食堂に通い、多くの人とふれあって、手伝いなどで感謝の言葉をかけられるようになって自信を得、明るさを取り戻した。などが話されました。

第2部のミニ講演では、子どもの成長過程における「子どもの社会化」を育てる「家庭・地域・公の場」の3つのうち、食堂の果たす役割は「地域」であり、また、子ども自身が自己肯定感を育てることができ、次世代の子どもたちを支えていくことにつながる。地域の問題は、地域で解決していく。子育てを地域も担う役割がある。

第3部の実践報告では、現在活動している2団体の現状と課題解決について報告がありました。

人間はひとりでは子育てはできないものだという。そのことを踏まえ、さらに現実社会状況を見るにつけ、「地域」の活動を通し、未来を担う子供たちの健康で安全な生活の保障のある社会を私たち大人は他人事ではなく考えていかなければならないと痛感しました。
(右上のページに続きます。)

(前ページより) 子ども食堂ネットワークづくり会議
に参加された方の感想の続きです!

会議に参加して

金子 美智子

要町あさやけ子ども食堂の栗林さんの講演では、こども食堂の活動のきっかけや経緯について、社会的背景や周囲の反応なども織り交ぜ熱い思いの伝わる内容だった。

ほんのちょっとしたのおせっかいというが、近隣の付き合いでも踏み込むのに躊躇する昨今、栗林さんの勇氣には頭の下がる思いがする。

一人ひとりの思いが多く共感者を呼び、地域の賛同や協働に繋がっていく過程については、コミュニティへの広がりを実感した。

活動に参加することで生きがいを感じられる方の存在も、さらなる広がりを生んでいくことだろう。

新潟での事例は、最近始まったばかりの2団体であるが、短時間で協力者を得て、着々と地域に根差している様子がわかり頼もしく思った。

2団体に共通しているのは「とにかくやろう!」という強い思いと行動力。今後の展開が楽しみだ。

7月、8月の会員会議

開催日 7月13日(水)、7月28日(木)
8月3日(水)、8月18日(木)

会場 上新栄町集会所

時間 午後7時から8時30分

※当日は会場費200円が必要です

※参加はご自由ですので、ご興味のある方、一緒に活動していただける方は、ぜひ一度ご参加下さい

ゆうやけこどもけやき食

開催日とメニューについて

7月7日 **七夕お星さまライス**、鳥から揚げ
(第1木曜) **スープ**、他**1品副食**、**シャーベット**

7月19日 **冷やし中華**、**青椒肉絲**(ピーマン肉)
(第2火曜) **炒め**、**デザート**(焼きプリン)

会員の皆様からの声を

5月から掲載しています

「こんなところがあったらいいな」

西区 中村とよ子

私は所謂「団塊の世代」。高齢者の入り口に立って、この先どうなるだろう、どんな形で生を終えるのだろうと時折思うが、それは神のみが知るところだ。

今、この地区で福祉施設を造る計画がある。そして、それは単に高齢者だけでなく子供から大人まで、誰もが出入りできる施設を目指している。お仕着せのものではなく、計画の段階から参加できるものだ。

人は必ず老いていく。病気もする。お医者さんは検査したり薬を出すことができるが、ゆっくり話を聞いてくれるには忙しすぎる。ここに来れば誰かがいる。本人でも家族でも相談に乗ってもらえる。子どもたちが遊んでいるのが見える。何かちょっとした楽しいことを見つけられる。家に居る生活の延長線上にこの場がある。その人がその人らしく居られる場所がある。もしも私に少しでも余力があったなら、ちょっとしたケーキを焼いてみたい、できることをお手伝いしたい。

こんな場所がこの地域にできたらどんなに心強い。私も微力ながら協力したいと思っている。

けやき会にかかわって

富井良子

旧寺泊町で夫の仕事で23年間、訪問歯科診療(当時は往診と呼ばれていたという。)の手伝いをし、4~5か所の施設と在宅での老人の生活を垣間見てきました。さらに、現在は老親との老々介護に入りつつあります。

健康寿命を超えて生きる人生の冬の時代をその人らしく生を全うすることは果たして可能なのか?。どこで当事者、家族は折り合いをつけるのか。

老親が施設とかかわるようになってからは、いつも自問自答してきたことでもあります。

現在の社会環境は、子育てから老親の介護まで、まさに社会化の一つである「地域」の役割が求められる時代に突入しているといわれます。人と人のつながりが思わぬ展開を起こすことは「けやき会」の運動においてももすでに実証されつつあります。

絶対多数側に入りきれない子供、青年、壮年、老人がそれでもそれなりに何とか暮らしていくことができる社会、地域を目指して「けやき会」がその一端を担えるように願っています。

楽しいバザーのご案内

「喫茶けやき」で開催するバザーのお知らせです。

開催日：8月21日(日)

午前10時～午後2時まで
喫茶けやき・上新栄町集会所
日用品・手芸品・喫茶コーナー他

《お願い》

お家に眠っている不用品等（衣料品以外）ございましたら、お持ちいただければ幸いです。

お持ち込みの期日：8月7日(日)まで
喫茶けやきへ（10：00～15：00）

～編集後記～

現在、特別支援学校高等部1年生の重度の脳性麻痺のこどもをもつ私は、あと二年後に迎える卒業後に向けてただいま準備中である。障がいをもつこどもたちは、学校卒業後、①就職、または、②福祉事業所のなかでの仕事（契約の有無あり）をしたり、③作業や生産活動、もしくは生活をする場になる生活介護事業所に通う、といった中での選択が一般的である。

わが子の場合、おそらくこの③の生活介護事業所に行くことになるであろう。

事業所にはそれぞれが特色もあるとお聞きしたので、今月より幾つか市内の事業所見学を始めた。とある事業所は、手足が不自由である当事者が、アルミ缶をつぶす作業を職員にサポートしてもらいながらその作業で得たわずかな工賃で、買い物にいたりおいしいものを食べたりするそうだ。就労の対価として収入を得、好きなものに変えるということは、私たちには当たり前のものであっても、障害をもつ人たちにとっては得難い貴重な成功体験でもあり、自立の一步であるに違いない。

障害と自立という問題は簡単ではない。けれど親が必要以上に身構えて不安に考えがちな現実に対して「もっと人生を愉しんで！」とその場を通して、大きく励まされたような気がした。 ■土屋 容子

先日、ツバメの夫婦が我が家の車庫に入ってきました。どうやら、巣を作ろうとしているみたいです。仲睦まじい二羽のツバメの姿は、夫婦が協力して子育てに当たる姿の見本だと感じました。いつの日か、我が家の車庫から元気なヒナが巣立って行ってほしいですね。

■板垣 龍介

「さとにきたらええやん」上映のご案内

右の映画がシネ・ウインドで上映されます。

日雇い労働者の街・釜ヶ崎で38年間続く子どもたちの集い場「こどもの里」人情が色濃く残る街の人々の奮闘を描く、涙と笑いあふれるドキュメンタリーです。

市民映画館シネ・ウインド

8月20日～9月2日

大人 1,800円

9月1日(水)はサービスデー：一般 1,100円



寄付ご協力のお願い

「夢」が一步一步確実に
「カタチ」に近づいています

社会福祉法人は、地域の福祉事業を行う非営利法人で、設立時に行政の認可が必要な法人です。設立時の条件である「自己資産を有する」という土地（750坪）については、既に売買契約を終えました。

今後は、土地に合わせて建物の設計に入ります。会員・地域の皆さんがこうしたい、ああしたいという希望を盛り込みながら、具体的な図面に仕上げていきます。

現在、会員及び会員以外の多くの方から既に約1,635万円の寄付金が寄せられています。さらに、ささえあい生協さんの総代会が終了し、正式に社会福祉法人設立支援の議案が決議され、5,000万円の寄付が決まりました。

今年11月頃には、新潟市の介護事業の公募に応募する予定です。私たちの願いを実現するためには、まだ2,500万円ほどが必要になります。なにとぞ皆様のさらなるご協力とご支援をお願い申し上げます。

◇呼びかけ人一同

寄付金振込口座

郵便局 口座番号：00580-0-102549

「社会福祉法人けやき会」設立準備会

代表 会田きよみ

第四銀行 小針支店

普通預金：口座番号 1345989

社会福祉法人けやき会設立準備会

代表 会田きよみ

※大光銀行、ろうきんでも受け付けております